～ 延岡の人々に祭られて180年 ～

今山大師（お大師さん）由来

◆日本一弘法大師銅像◆
［昭和32年（1957）建立］

今山大師の由来

伝承によると、1839年（天保10）に延岡に蔓延した「疫病」を封じるために、東海村大武の満石幸蔵・治助親子が四国八十八ヶ所を経て高野山に登り、金剛峯寺から弘法大師坐像を今山に勧請して「大師庵」を構えたことに由来します。

今山大師祭りの由来

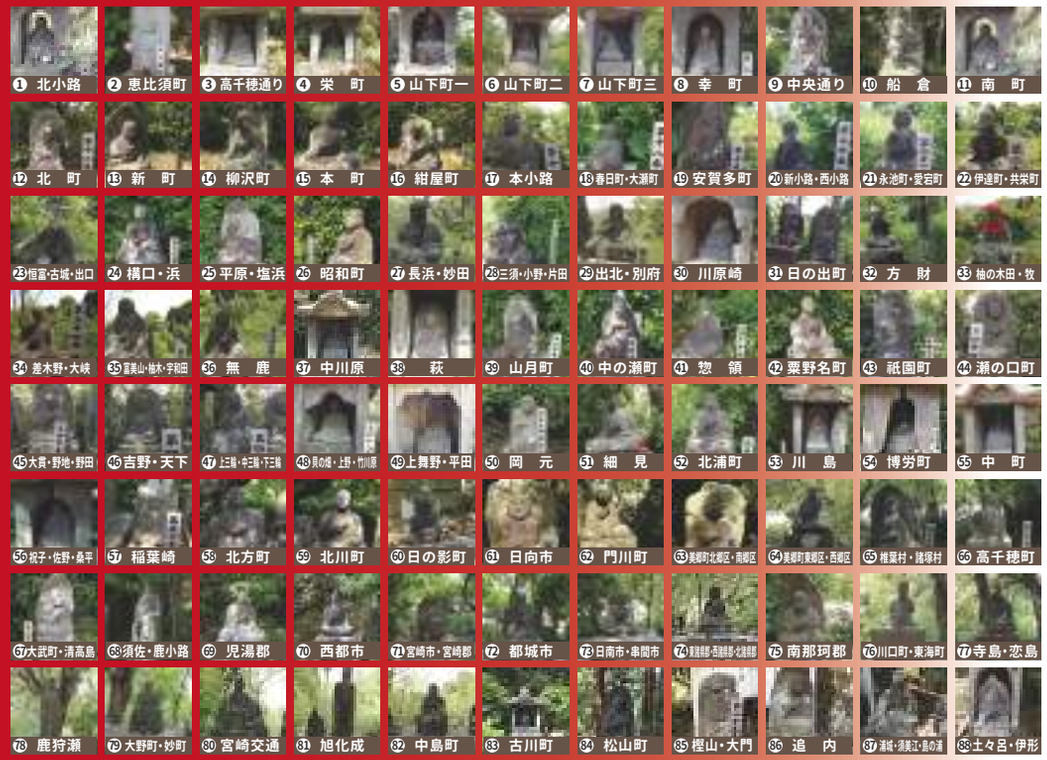
その後、「疫病」終息のご利益を得て、報恩感謝のお祭り「今山大師祭り（お大師さん）」として、天保11年（1840）旧暦3月21日〝弘法大師ご命日〟に始まりました。今日では、〝九州三大春祭り〟の一つともされ、毎年4月第3日曜日を最終日に3日間開催されます。

日本一弘法大師銅像（高さ17m・重さ11t）

今山大師山頂の弘法大師銅像は、昭和32年（1957）4月に〝日本一弘法大師大銅像〟として建立されました。「五穀豊穣」「商工発展」「家内安全」「世界平和」等ご加護いただく〝お大師さん〟として多くの皆様のお参りを頂いております。

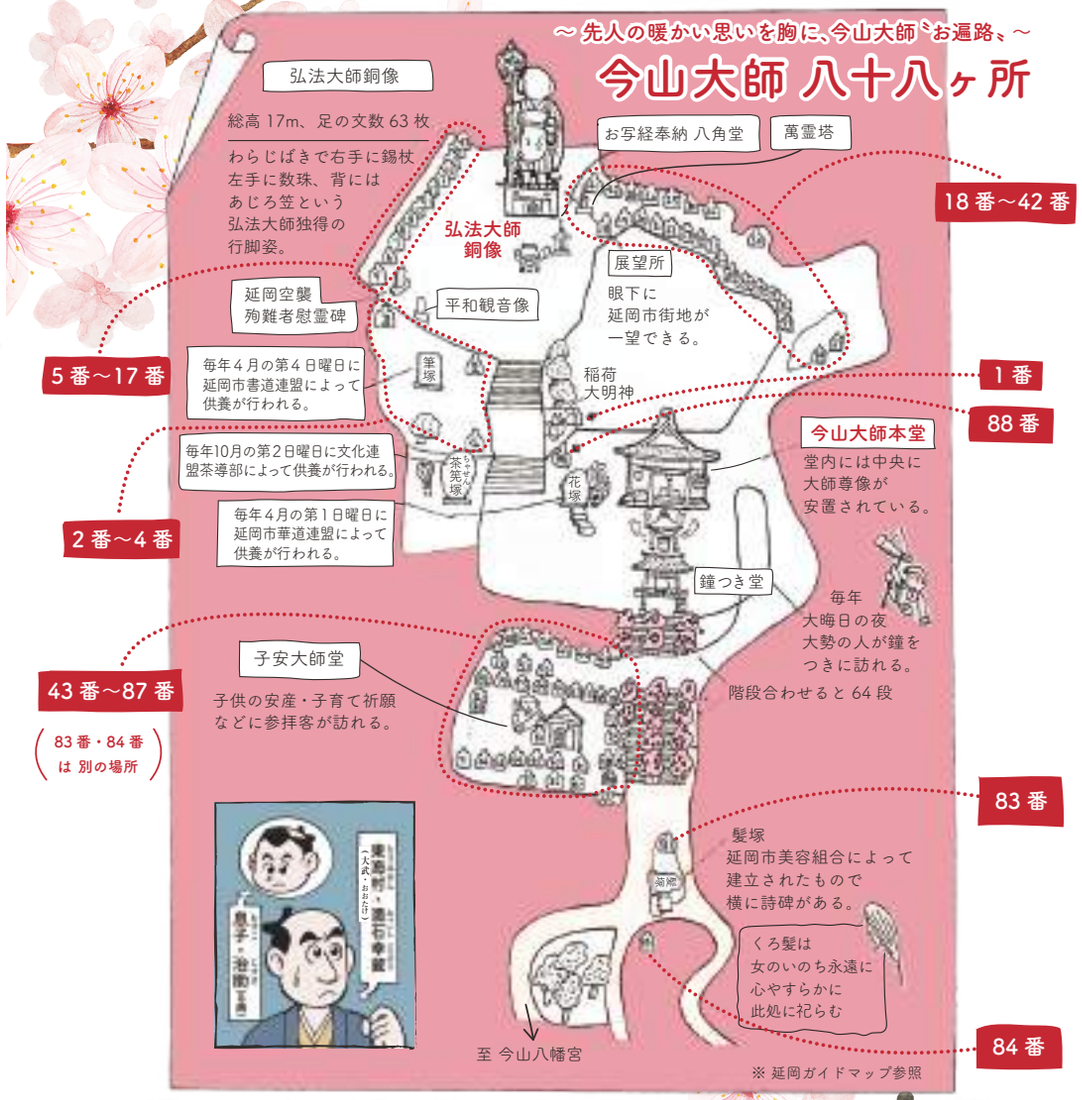
◆本尊弘法大師坐像（本堂）◆
［天保10年（1839）勧請］

― 今山大師八十八ヶ所守護大師［各お像は延岡市内外の地区市町村・企業から明治～昭和時代にご奉納されました］



～ 先人の暖かい思いを胸に、今山大師〝お遍路〟～

今山大師 八十八ヶ所



今山大師「八十八ヶ所」由来

「疫病封じ」に弘法大師（お大師さん）坐像を今山に勧請（天保10年／1839年）した満石幸蔵氏は、さらに大きな願いを村人に投げかけました。「今山を四国八十八ヶ所と同様の霊場にしよう！今後再び〝疫病〟が起こらぬように。延岡の村々が〝繁栄〟しますように。各村の守護大師を今山に祭ろう！」この提案は、大賛同を得て実現しました。（天保11年）

しかし、明治維新となり新政府の廃仏令により撤収。その後、明治22年（1889年）に再び村々の有志が立ち上がり、「今山大師（山）八十八ヶ所」として復興しました。

そして、今日なお「今山大師八十八ヶ所」は延岡市内各地区の守護大師（お大師さん）として、微笑みを浮かべて延岡を見守っておられます。